

(具体的な内容は、去年度の報告書「3. 各医療機関の取り組み」を参照ください)

1) 千里山病院

①特徴

千里山病院は60床の亜急性期病院である。内科、リハビリテーション科からなり、地域包括ケア病院を目指している。平成27年2月から大阪大学疼痛医療センターと連携して慢性痛に対する入院集学的リハを施行している。平成29年10月からは、外来部門も整備し、入院機能と併せて、集学的痛みセンターを開設した。従来の3週間入院プログラムに加えて、診察や運動などの生活指導を行う理学療法作業療法なども外来で行う診療も充実してきている。また、入院の前に外来にて教育的介入を行うこと、退院後にフォローを行うことで、以前より効果を上げている。初診時から、多職種が評価治療をする集学的診療を実施していることが特徴の一つである。

②診療連携

合計11症例について、診療連携をした。以下に詳細を報告する。

・阪大病院疼痛センター 5名

集学的診療を目的として、腰背部痛 1名 頸腕症候群 1名 線維筋痛症 1名、緊張型頭痛 1名 脊柱管狭窄症術後 1名の紹介を受けた。線維筋痛症の1名が初診をキャンセルし、緊張型頭痛 1名が紹介元でのフォローとなった。腰背部痛の1名が入院集学的リハを施行し、頸腕症候群 1名と脊柱管狭窄症術後 1名が外来にて運動療法と教育的サポートを継続中である。

・市立芦屋病院 麻酔科 1名

集学的診療を目的として線維筋痛症 1名が紹介となった。 外来にて運動療法と教育的サポートを継続中である。

・兵庫医大整形外科 1名

集学的診療を目的として、左膝痛 1名の紹介を受けた。外来にて運動療法と教育的サポートを継続中である。

・膳所診療所 2名

頸肩腕障害 2名が紹介となった。1名は紹介元の治療を継続していただくことになり、1名は運動療法を中心とした1週間の入院を施行した。

・京都府立医科大学ペインクリニック 1名

右足 Morton 病の1名が紹介となった。外来にて、運動療法と教育的サポートを継続中である。

・関西医科大学付属病院 心療内科 1名

両膝痛の1名が紹介となった。状況の変化が生じたら、再診していただくことになった。

③研修会

実施なし

④施設訪問

7月 医師、理学療法士、作業療法士各1名が阪大疼痛センター訪問した。

7月 理学療法士2名が滋賀医大ペインクリニック訪問した。

7月 理学療法士1名が川崎医大ペインクリニック訪問した。

8月20日のごと診療所より医師1名、理学療法士2名が集学的痛みセンターを見学した。

⑤その他

* 偶数月の月末までに、塚本 (secretary@pain.med.osaka-u.ac.jp) にご送付ください。最初の報告シート締切は6月末となっております。8月以降の報告シートは、前回送付の報告シートに追記する形でご送付ください。

* 研修会の案内状や研修会当日の資料、施設訪問の際の報告書があれば添付してください。個人情報を含むスライドがある場合は、下記のように文言を削除してご送付ください。

症例報告

○歳女性

X年○月より、突然左上肢に痛みが出現。
複数の病院に通うも改善せず。痛み悪化により、介護士の仕事を休職…。



症例報告

(以下、個人情報を含むため削除)